平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ３４ ※記入不要	提案機関名	横浜川崎地域農業改良普及センター

要望問題　各種花木・庭木類の増殖技術の取りまとめ

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

背景

近年は植木類の生産はかつての緑化木の少品目多量生産から多品目少量生産へと移行しており、増殖方法がはっきりしていないものもありそれらについては他の樹種を参考に増殖を行っているのが現状である。そのため、県内で生産されている樹種について、挿し木、接ぎ木、取り木などの適期と方法を取りまとめ蓄積しておくことが望まれている。

内容

各種花木・庭木類の挿し木繁殖の適期の解明
〃　接ぎ木繁殖の適期の解明
〃　取り木繁殖の適期の解明
〃　増殖技術の取りまとめによるデータベース化

対象地域及び規模

横浜市及び川崎市　約 100 戸

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

回答機関名	農業総合研究所

部　　署：生産技術部

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

花木・庭木類の増殖技術につきましては旧園芸試験場相模原分場から現在に至るまでその時代毎に対照樹木を変えながら続けており、樹種数で約 40、品種数では 100 を超える植物の増殖技術を確立してきました。しかしながらご指摘のとおり近年多品目化がさらに進み未解明の樹種が多く存在していますし、新しい植物の検索も常に続けられています。今後も普及センター等と情報を交換しながら優先すべき樹種を検討し増殖試験を積み重ねていきます。

個別の試験結果のとりまとめ及びデータベース化につきましては別に検討させていただきます。

なお、各増殖技術の総論につきましては 2002 年に県植木生産組合連合会から「植木生産の手引き」を発行した際にとりまとめを行いましたのでご参照下さい。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	